

左荒線（左沢～荒砥線）

「左荒線」とは、JR左沢線の左沢駅と現在の山形鉄道フラワー長井線の荒砥駅間に計画された鉄道です。

昭和2年に初めて敷設が閣議決定されて以来、幾度となく延期・中止の危機にさらされながら、昭和11年には大谷・宮宿・大瀬の3駅を設置することや総延長を22・7キロとすることなどを盛り込み、完成を昭和15年度とする具体的な案が示

されます。その後、実地測量や調査が行われますが、日中戦争、第2次世界大戦、そして敗戦と激動する時代の中で工事は実現することなく、計画自体も暗礁に乗

り上げてしまいました。戦後も「左荒線期成同盟会」で運動が行われましたが、開通の悲願は叶わず、平成8年、敷設に向けた活動の幕を閉じました。

▼「まぼろしの左荒線街道ツアー」とは？

本協議会ではこの3つの

実施しています。

キーワードに着目。五百川峡谷沿いに計画された「左荒線」の沿線をレトロバスで巡る「まぼろしの左荒線街道ツアー」を21年秋から

運行日は、秋もしくは春の週末で、毎年8回程度。左沢駅を始発、荒砥駅を終着駅に、選奨土木遺産をはじめとした3町の観光スポットを約4時間で巡ります。



寒楯（寒河江～楯岡間）線とともに、左荒線の完成予定年度を報じる昭和11年4月11日付の山形新聞。記事には「内定せる新駅」の表題とともに、設置される駅や総延長、橋梁数など、建設計画の概要が記されている

定員は1日8人と少人数ですが、既存の観光地にはない隠れた魅力や地元の観光ボランティアによる丁寧なガイド、趣のあるレトロバスなどが話題となり、開催初年度には多数のキャンセル待ちも出るほどのにぎわいを見せました。



松本陽子さん
(山形市/左)
石川由美さん
(天童市/右)

5月28日の左荒線街道ツアーに参加しました。以前から左荒線や朝日町の棚田に興味がありましたが、レトロバスにも乗りたかったです。

ツアーは、コンパクトに3つの町の魅力が詰まっていて、土木遺産の橋や舟道跡、山菜の入った手料理などを満喫しました。また、観光ボランティアガイドさんのおかげで、旅をより楽しめました。全体を通じて、人のもてなしの温かさを感じました。

人の「もてなし」が温かい旅



大江町
町史編さん事務局員
村上 宗紀さん

左荒線の敷設は、五百川峡谷とともに歩んできた白鷹・朝日・大江の住民にとって共通の悲願でした。

これをはじめ、舟運との関わりや青そ、養蚕などの産業などに見られる多くの共通点は、この地域の宝となって生きています。これらの魅力を発見し守り育てながら、外に発信することが、地域の特性を生かした観光振興と言えます。先日の新聞に「地域に住む人が愛さない地域に、外から人はやって来ない」とありました。観光振興の原点ではないでしょうか。

「おらほの宝」の掘り起こしを